

リース取引 第1問 問題

次の各取引について仕訳しなさい。ただし、問題文で指示されている勘定科目以外は、許容勘定科目表から最も適当と思われるものを選ぶこと。

1. 当期首に備品を年間リース料¥200,000、期間 5 年の条件でリースした。なお、当該リース取引は、ファイナンス・リース取引に該当し、会計処理は利子込み法によるものとする。
2. 1. の 1 回目のリース料¥200,000 を現金で支払った。
3. 決算につき、1. のリース資産について残存価額ゼロ、耐用年数 5 年の条件で定額法による減価償却を行う。なお、仕訳方法は間接法によること。
4. 当期首に備品を年間リース料¥300,000、期間 5 年の条件でリースした。備品の見積現金購入価額は¥1,460,000 である。なお、当該リース取引は、ファイナンス・リース取引に該当し、会計処理は利子抜き法によるものとする。
5. 4. の 1 回目のリース料¥300,000 を現金で支払った。なお、リース料に含まれている利息は、每期均等額を費用として処理する。
6. 決算につき、4. のリース資産について残存価額ゼロ、耐用年数 5 年の条件で定額法による減価償却を行う。なお、仕訳方法は間接法によること。
7. 岡山産業(株)は、当期首に下記の条件によって広島リース(株)と事務機器のリース契約を結んだ。なお、このリース取引はファイナンス・リース取引であり、会計処理方法は利子抜き法によること。
リース期間 ; 5 年 リース料 ; ¥100,000 見積現金購入価額 ; ¥480,000
8. 3 月 31 日に岡山産業(株)は、7. の 1 回目のリース料を契約通りに小切手を振り出して支払った。また、本日、決算日にあたり、耐用年数 5 年、残存価額ゼロとして定額法で事務機器の減価償却を行う。なお、リース料に含まれている利息は、每期均等額を費用として処理する。
9. 当期首にリース期間 3 年、リース料年額¥60,000 のオペレーティング・リース取引を行った。本日、リース料年額の¥60,000 を現金で支払った。
10. 当期首にリース期間 4 年、リース料年額¥30,000 のオペレーティング・リース取引を行った。本日、リース料年額の¥30,000 を現金で支払った。

リース取引 第1問 模範解答

	仕		訳	
	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	リース資産	1,000,000	リース債務	1,000,000
2	リース債務	200,000	現金	200,000
3	減価償却費	200,000	リース資産減価償却累計額	200,000
4	リース資産	1,460,000	リース債務	1,460,000
5	リース債務 支払利息	292,000 8,000	現金	300,000
6	減価償却費	292,000	リース資産減価償却累計額	292,000
7	リース資産	480,000	リース債務	480,000
8	リース債務 支払利息 減価償却費	96,000 4,000 96,000	当座預金 リース資産減価償却累計額	100,000 96,000
9	支払リース料	60,000	現金	60,000
10	支払リース料	30,000	現金	30,000

【解説】

- $¥200,000 \times 5 \text{ 年} = ¥1,000,000$
- $¥1,000,000 \div 5 \text{ 年} = ¥200,000$
- 支払利息 ; $(¥300,000 \times 5 \text{ 年} - ¥1,460,000) \div 5 \text{ 年} = ¥8,000$
- $¥1,460,000 \div 5 \text{ 年} = ¥292,000$
- 支払利息 ; $(¥100,000 \times 5 \text{ 年} - ¥480,000) \div 5 \text{ 年} = ¥4,000$
減価償却費 ; $¥480,000 \div 5 \text{ 年} = ¥96,000$